

# 木更津と東北に届け！ この熱き想い

「H-STANDARD」のギタリストとして一世を風靡したKen Yokoyamaが、ある情熱を持った若者たちの呼びかけに応じて木更津でライブを敢行。彼を動かしたものは――



例年よりも早く咲いた桜が散りかけた3月31日、木更津のライブハウス「KAVACH」で、あるライブが行われた。アーティストは「H-STANDARD」「Ken Band」で若者から絶大な支持を集めるKen Yokoyama。有名アーティストによる地方都市でのライブ。ここまではよくある話だ。彼を木更津に向かわせた、若者たちによるもうひとつの目的を除けば――。



戦」と銘打ち、これらの物資は、東日本大震災の復興支援で被災地へと運ばれていくのだ。今回のライブを企画したのは弱冠25歳の石原健也さんを代表とする「Team-K」のメンバーたち。震災で友人を亡くした石原さんを中心に結成された、東日本大震災復興ボランティア団体だ。2011年5月から今までに計10度の支援活動を行っている。このライブには、彼らの活動と、東日本大震災の現状を多くの人に知って欲しいという意味が込められていた。「食べ物大作戦」もまたその一環だ。さらに「Team-K」には、もう一つの目的がある。拠点とする木更津市を活性化させたいということだ。団体の名「K」には「木更津」の頭文字という意味も含まれている。そうした彼らの想いが、この日のライブを実現させた。



この日会場には1094点の支援物資が届けられた



放たれる轟音に熱狂するオーディエンス。「If You Love Me (Really Love Me)」で幕を開けたライブは、震災のことを唄った「Ricky Punks III」や、ハイスタの名曲「STAY GOLD」など、アンコールを含め全24曲を演奏。途中「This is your land」の前には、「自分の街にこだわって愛していきたい人を俺はサポートしていくぜ」と、Kenから熱い言葉も投げられた。「自分の街を愛する」。シンプルだが、一番大事なこともかもしれない。復興支援にはいろんな形があって、まずは自分のできることからやってみよう。そんなメッセージが、まさに会場で共鳴しあった一日だった。



## 始まりは一通のメール

最初に、なぜ木更津でライブを行おうと思ったのですか？  
Ken Yokoyama (以下、K) 一通のメールからです。僕はウェブでコラムを書いているんですけど、ある日、そこに石原君からメールが届いたんですよ。いろんな人からメールが来るんですけど、「地元を活性化させたい」という内容を読んだ時に、「あ、自分と立ち位置が近いな」と思っさく感じました。それですぐ行くことって。石原(以下、K)さんが福山でライブをやった後に、「人が街を変えていく」みたいなことを書かれてたんですね。もともと憧れのnonoさんでしたし、「ぜひ木更津を盛り上げるために来てほしい」と思っ、気が付いたらメールしてました。後から読み返したら、4500文字も打ってましたね(笑)。  
K 熱意伝わりましたよ。僕ら



ボランティアとして働くTeam-Kメンバー

音楽やってる人間にとっては、大都市とか集客がっていうよりも、熱い人間がいて「コイツに呼ばれたい、会いに行きたい」というのが、一番気持ちが入るんですよ。  
K Kenさんに訊きたかったんですけど、僕たちのような小さい団体をよく信用してくれただとか、例えば僕が明日悪いことをして捕まっちゃったら、Kenさんにまで迷惑がかかる訳じゃないですか。  
K うーん。それは、どうってことないっていうか：小さい大きいは関係ないんだよね。今日初めて石原君に会ったけど、会った瞬間に、似た熱を持ってる人だなって思いましたよ。

今日のライブの感想は？  
K 木更津でライブをやるのは初めてだったけど、「Team-K」の熱意が会場全体に届いてるみたいで、熱かったですね。毎回ライブは特別なんですけど、今日は特にそう感じました。

僕も間近でライブを見られて、しかもKenさんの口から「木更津」という言葉が出るだけでも感動でした。「活性化」というには大きいかもしれないけど、木更津が少しでも動き出すきっかけになればと思います。

## 「活性化」とまで言えなくても 木更津が少し動きだせば

Team-K 石原 健也



## 「まち」って結局「人」なんじゃないかな

Ken Yokoyama



僕たちは今、被災地に行くと、物資の支援だけじゃなく現地の人と話をしたり、掃除をしたりしています。いいことなのかどうかわからないんですけど、「あ、また来てくれたんだ」と思ってもうれしいなって。  
K 「これが正解だ」と答えて押しつけるんじゃないって、「おい、こういう問題があるけどどうする？」って提起をしたんですよ。後は自分



## 3・11に対して どう向き合うのか

Kenさんはチャリティライブなど、東日本大震災復興に対して精力的に活動を行っていますね。  
K 震災で感じたことについては、一言では表せないですね。今、自分が考えていることは、震災から2年が経って、風化させたくない、西日本のファンにも伝えていきたいということなんです。



この日集まった物資は、4月28日に「Team-K」によって、宮城県南三陸町の4ヶ所の仮設住宅に届けられた



支援物資を持って訪れたファンたち

## 最後にお互いに対してメッセージをお願いします。

Kenさん。今日は本当にありがとうございました。また、どこかのライブで「木更津よかったわ」と言ってもらえたら嬉しいですね。僕たちも、細く長く活動を続けていきます。  
K 「Team-K」は、実際大変だと思っんですよ。「もういい」と思っった時には、止まることも必要だと思っんですよ。重症に負けず、自分の嗅覚を信じて活動を続けてほしいですね。